

かすみ草



撮影 土谷理事長

2021.8 No. 56

「瘦せして雪後の松」

理事長 土谷 力



今回は、私が最近読んだ書籍について述べたいと考えています。一冊は谷川浩司棋士著 書籍「藤井聡太論、将棋の未来 天才が将棋界を席卷する若き天才の秘密に迫るの」感想を述べるか。それとも石原慎太郎著 書籍「あるヤクザの生涯 安藤昇伝」について述べるか：

今回は、石原慎太郎著 書籍「あるヤクザの生涯 安藤昇伝」の長いあとがきの中にある「雪後の松」を取り上げていくことにしたい。

「雪後の松」という言葉は中国の宋の禅僧 圓悟克勤禅師の言葉で『圓悟語録』に収録されている詩です。

石原慎太郎著 書籍「あるヤクザの生涯 安藤昇伝」の長いあとがきの中には「雪後の松とは雪後に初めて知る松柏の操、事難しくして方にみる丈夫の心とな。男というものは普段の見かけがどうだろうと、いざというときに真価がわかるものだ。松の木は花も咲かず暑い真夏にどうと言って見どころない木だが、雪の積もる真冬には枝を折るほどの雪が積もっても、それに耐え、青い葉を保っている。それが本物の男の姿だと思う。私はこの詩が好きです」と書かれている。

冬を男の晩年に置き換えて何も悔いることないという心境で粹な姿で、人生を考えていかなければならないと思っている。

粹とは、私的に考えれば「瘦せ我慢」ということだと思ふ。瘦せ我慢をすることは、私の人生の中で数多くあったが、本当の意味で粹と言えるほどの瘦せ我慢があったかどうか。

「瘦せ我慢」について考えた際に福沢諭吉の著書『瘦我慢の説』を思い出した。

明治24年（1891年）に著された論説で、日本が国際社会の中で強国と対等に渡りあつていくためには、瘦せ我慢の精神が必要であることを説いたものである。

現代では「瘦せ我慢」というと、内心では弱っていたり困っていたりしているのに本音を隠して強がりを言ったり平静を装うというような意味に使われるようです。

どちらかと言えばあまりポジティブなイメージの言葉ではない。しかし福沢諭吉はこうした瘦せ我慢こそが重要であると言っています。

それは前時代でいえば「武士の意地」というものに当たり、しかし「武士は食わねど高楊枝」のような単なる見栄っ張りを指すものではありません。

たとえ自分は敵よりも実力が劣っていて、戦ってもおそらくは敗北するであろうことが分かっていたとしても、重要なことは勝つか負けるかという結果ではなく、終始、闘争精神を持ち続けることである、ということなのです。

もし瘦せ我慢の精神がなければ、弱者はいつまでも強者の家来でなければならず、小国は大国の傘下にいなければなりません。



福沢諭吉が強調するのは、まずは痩せ我慢の精神を持って臆することなく周囲の「敵」と対等に向き合い、内では自らを研鑽し鍛えつつ、弱者から強者への地位へと自分を引きあげていこうということです。

私は福沢諭吉が強調する痩せ我慢の美学こそが、今の時代に重要なのではないかと考えています。

これまでの私の人生を考えると粹な人生を送ってきたかどうかはわからないし、粹な人生の場面もあったかどうかもわからない……。

福沢諭吉の「瘦我慢の説」を思い出しながら、私は今後、粹な痩せ我慢のチャンスがあったら、全力で、人生をかけて粹な痩せ我慢をしてみたいと考えています。

粹な人生を送り、人生を終えられたらと思っています。



～我が故郷 豊後高田市の風景～ 撮影 土谷 力理事長



理事長の講話について

2019年7月に開催された全国障害関係施設長等会議の中で、障害者施設は安心安全に暮らすだけでいいけない。

障害者の方々も社会に進出することが大切であり、障害者の方々にも社会生活のマナーを指導していく必要があるとの話があり、理事長が2019年7月から毎週火曜日に施設入所者・就労B型利用者の皆様に社会生活や施設内でのマナーに関することを中心として講話を継続して行っています。

施設利用者間でのトラブルが多いため、講話では施設生活の基本的なルール「他人の部屋に入らない・他人の物を盗らない・他人の悪口を言わない」の「3ない運動」や施設生活でのマナーや就労B型利用者に対しては今後、社会に出ることを前提とし、社会生活のマナーについて講話を行っております。

その他では現在、コロナウイルス感染症対策の為、面会や帰省、行事による外出の一部中止を行っている理由を話し、利用者の皆様に理解を求めています。

また7月20日の講話では家具等で有名な「ニトリ」の会長である似鳥昭雄氏の話を行いました。似鳥氏は先日、自身が発達障害であることを発表しましたが、発達障害により苦手を抱えながらも一代で売上高7千億円の築き上げた話を行いました。

その中で自分が何が得意なのか、いろんなことをやってみて、長所を見つけていることが大事である。

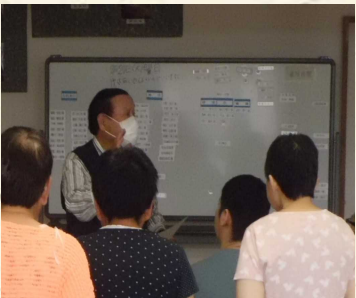
長所によって、短所が隠れる。長所である好きなことに集中すれば、大きな壁にぶつかり苦しいけれども、壁を打ち破ることができれば、成長できるということの話を行いました。

利用者様には長所を見つけて、成長してもらいたい。また職員には利用者様の支援にあたり、利用者様の長所を伸ばす支援を行ってほしいとお話をさせていただきました。

これまで2年間継続して講話を行う事で、利用者内でのトラブルも減少してきていると思われれます。

施設内でのトラブルを減らし、少しでも利用者様には快適に生活を送っていただきたい。

また利用者様が一人でもこの施設から社会へ進出して頂きたいと考えています。



新型コロナウイルス感染症対策について

施設内新型コロナウイルス感染対策

現在、施設では新型コロナウイルス感染症防止のため、定期的にコロナウイルス対策会議を開催し、利用者・職員共に感染者を出さないよう対策を実施しています。

幸い施設内ではコロナウイルスの感染者は出ていませんが、コロナウイルス感染対策として、3密を避ける、施設内の換気やこまめに体温測定を行う、うがい手洗いの徹底、緊急以外の外部者の立ち入りを禁止する等の対策を徹底して行っています。

衛生用品等の確保・設置

衛生用品につきましても消毒用アルコール、不織布マスク、使い捨て手袋などは在庫を切らすことなく確保していますが、今後も感染拡大が続き、衛生用品確保が難しくなる場合もありますので、先を見通して物品の確保を実施していきます。

また施設内で利用者様が多く時間を過ごすホールに次亜塩素酸 空間除菌脱臭機を設置致しました。

コロナウイルスワクチンの予防接種について

コロナワクチンの予防接種に関しましては利用者様・職員共に順次接種を実施している状況です。

施設行事の対応

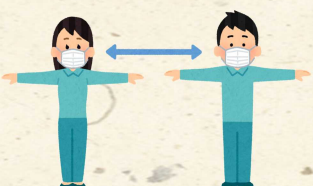
施設行事に関しましては、昨年度同様新型コロナウイルスの影響で多くの行事が中止になっていますが、そんな中でも利用者様に少しでも楽しんでいただけるように、感染症予防を行いながら、花見行事などいくつかの行事を開催しています。

面会・帰省についての対応

利用者様の御家族・利用者様にとって非常に楽しみにしている家族との面会や自宅等への帰省については現在、中止とさせて頂いております。

長期間の面会・帰省の中止が続いていることで、利用者様は長期間ストレスが生じているため、利用者様の精神的安定を図るため、週一回のドライセラピーや施設内でのカラオケなどのレクリエーションを行い、少しでも利用者様のストレス解消になればと実施しております。カラオケの際は利用者様が密にならないよう対策を行い、ドライブについては大分県内の新型コロナウイルス感染地域を避ける、外部者との接触は避けるなどの対策を行っています。

当法人では厚生労働省が作成した障害福祉サービス施設・事業所職員の感染症への対応力の向上を目的として、必要な感染症の知識や対応方法等をまとめた「障害福祉サービス施設・事業所職員のための感染対策マニュアル」を基に新型コロナウイルス感染症対策を実施しております。



「相談支援ユニット」

相談支援専門員 池田 正弘

今年度より相談支援専門員として勤務することになりました池田正弘と申します。よろしくお願い致します。

今回は、私が携わっています相談支援について説明をさせて頂きます。

生活していく上で困ったことがある時や福祉サービスを利用する場合に相談できる窓口は、市町村の福祉の窓口だけではなく、都道府県や市町村が指定した相談支援事業所でも無料で相談する事ができます。

相談支援事業所は障がいがある人の相談を受け付けている機関です。障がいのある本人や保護者などの相談に対応したり、必要な情報を提供したり、権利擁護のための必要な援助や福祉サービスの利用をサポートをしたりします。

相談支援には**三つの種類**があり、相談の内容に応じて「**基本相談**」「**計画相談**」「**地域相談**」に分けられます。ここで簡潔に述べていきます。

「**基本相談**」とは、障がい福祉に関するさまざまな問題について、障がい者本人や家族などからの相談に応じて、必要な情報を提供したり、福祉サービスの利用支援を行ったり、権利擁護のために必要な援助を行うものです。

「**計画相談**」とは、障がい福祉サービスの利用申請に必要なサービス等利用計画を作成したり、サービスの利用にまつわる相談に対応したり、関係機関との連絡調整などを行ったりします。

「**地域相談**」とは、障がい者支援施設や精神科病院、矯正施設（刑務所など）を出て地域生活を目指す障がい者を支援するものです。

地域相談の中に2つの種類があり、「**地域移行支援**」と「**地域定着支援**」があります。

ここで「**地域移行支援**」と「**地域定着支援**」について簡潔に説明します。

「**地域移行支援**」とは、長い間、施設や病院や刑務所で暮らしていた人が地域で暮らすためには様々な支援が必要です。家と一緒に探したり、外出に同行したり、関係機関との調整等のサービスを行います。

「**地域定着支援**」とは家族と同居する生活から独立した人やグループホームから独立した人を含め、障がいがある人が地域で暮らし始めてから不安な時やトラブルが起きて困った時に応じます。



看護係より

看護師 渡邊 博子

昨今、新型コロナウイルスが蔓延しており、感染症予防対策が重要視されています。

新型コロナウイルスは、重症化しやすいため、施設等においては、ウイルスを持ち込まない、拡げないことに留意し、感染経路を絶つことが重要です。

マスクの着用、手洗いは、感染経路を遮断するためにとっても大切です。

感染を起こすには様々なルートがあります。口から食べ物とともに感染する「経口感染」、くしゃみや咳とともに見えない小さな粒子となって排出された病原体が鼻や口から感染する「飛沫感染」（空気感染）、汚染された物に触って感染する「接触感染」があります。

様々な感染経路がありますが、基本的には手洗いでかなり感染が防げるといわれています。特に接触感染や経口感染の予防には欠かせないことです。

当施設では外出時のマスクの着用と手洗い、空気清浄機や窓開けによる換気で感染対策の徹底を図っています。



栄養係より

栄養士 村上 育子

毎日厳しい暑さが続いています。体調は崩されてないでしょうか。

この暑さで食欲が無く、食事を抜いたり簡単な食事で済ませたりしている方も居ると思います。

そうすると栄養のバランスが偏り体力低下につながり熱中症や夏バテを引き起こしやすくなります。

水分補給もこまめに行い、1日3食きちんと栄養バランスを考えて食べるようにしましょう。

蛋白質の肉や魚・大豆製品・卵など、ビタミン類の野菜・果物など、炭水化物の米・パン・麺など牛乳・乳製品、いろいろな物をバランス良く食べましょう

そして、この暑い夏を乗り切りましょう。

